



宮桜会 会長
黒木 洋一
(4回卒)

2016年に向けて

今年は野球部が念願の甲子園出場を果たし、日大高校と共に私達宮桜会も応援や寄付金の募集など忙しい一年でした。その中で卒業生同士の絆も深まったのではないのでしょうか。そして冬のイベント「都大路」も女子駅伝部が昨年に続いての出場でスポーツ面での躍進が続いて目が離せない状態です。駅伝も遠征への暖かい応援の寄付を受け付けています。

さて、私達「宮桜会」では、5年前から母校とのコラボレーションイベントとして「日大ワッショイ」というイベントを開催しています。今年は甲子園の対応で一杯だったのでやむなく中止になり、ご迷惑をおかけしましたが28年度は是非開催したいと思いますので、実行委員のお手伝いをやってみたいという方がいたら是非ご連絡下さい。HPの問合せのページから、または日大高校の宮桜会担当職員までお願いします。

2015年を振り返って 編集者便り

早いもので原稿が今年最後の編集になり、改めて今年を振り返ってみました。宮桜会は黒木会長に変わり、新しい取り組みをここ数年やって来ました。日大ワッショイの毎年の開催、支部の統合及び活性化、宮崎日大学園50周年に関して共同でのイベントや協力、延岡・日向地区県北初の同窓会など色々な事に取り組んできました。今年は、新たな取り組みを見直すと同時に、足元を固める為の1年だったと思います。その中でやはり各支部が元気に歩いてくれる事が一番大切な事です。



甲子園では、卒業生と在校生が一体になって応援しました。

卒業生から頼られる支部であり宮桜会でなければなりません。そうなる事で今まで以上の強い繋がりが出来ると考えます。今年野球部が16年振りに「甲子園」出場を果たした事で、より一層卒業生が学園に対し強い思いを寄せてくれた事でしょう。地元から大勢バスで応援に行ったり、県外からも「久しぶりに母校の事を思い出して試合の応援に行きました」という話をたくさん耳にしました。さらに野球部だけでなく、他のスポーツ部や文化部への応援する体制も、学園ともっと連携を取り、構築して行く事が大切なのではと気付かされました。今年気付いた事を生かし、来年は1つ1つ形に変えて行く1年にしたいと考えますので、その様子を日大通信で皆さんにお知らせしていきたいと思っております。

宮桜会宮崎南支部の活動報告

宮桜会宮崎南支部は、平成26年10月に黒木唯男支部長（10回卒）を中心に、有志6名程で発足しました。参加者は宮崎市南部（大淀川以南）出身や、そのゆかりのある卒業生です。活動は年間数回程度の懇親会を開催して、卒業生同士の親睦を図ることと、母校への支援活動を行うことです。平成27年夏の野球部の甲子園出場に際しては、募金活動でささやかながら尽力をさせていただきました。また、その際、卒業生でもある長倉保美先生に部活動の活躍の現況を紹介していただきました。

現在では、宮崎南支部の参加者も20名程になりましたが、今後さらに参加者を増やし、支部を盛り上げていきたいと考えております。先輩後輩で異業種交流できる、ざっくばらんな楽しい会ですので、是非、宮崎南地区にゆかりのある方のご参加をお待ちいたしております！



宮崎南支部副支部長 川添 博(16回卒)
連絡先 090-4986-6855



忘年会には、後藤理事長と長倉先生も参加しました。

2016年 活動方針

「宮桜会」活動の柱

1. 「支部活動」の発展
2. 「日大ワッショイ」の継続
3. 「異業種交流会」の復活
4. 「日大通信」の発行

1. 「支部活動」の発展

- ① 支部長会 定例化、三役会を年4回開催、その翌月に支部長会を行う。
- ② 活動マニュアルの作成。
- ③ 年間計画を立て、強化支部を選定し役員全体で応援、計画の協力を支部に求める。
- ④ 支部組織、各担当役員が定期的に支部長に連絡を取る。

2. 「日大ワッショイ」の継続

目的：会員相互の親睦と、会員と母校との連携を深めそれぞれの発展を祈念する。

開催時期：10月～11月 毎年1回

3. 「異業種交流会」に関しては新年度の三役会で取り決める。

※平成28年度について

1. 支部の強化(サポート)
2. 異業種交流会
3. 日大ワッショイ

(27年度は野球部の甲子園応援に切り替えた) この3つの活動に対して、皆さんのご協力をお願いします。

第8回 頑張っている卒業生

※懐かしい卒業生がいたら連絡して下さい。

井上 優(11回卒)

プロフィール

現在、(NPO) iさいと 代表理事、
(NPO) 宮崎文化本舗 副理事長
宮崎県地球温暖化防止活動推進センター長

11回卒業の井上優と申します。現在私は宮崎県NPO活動支援センター長として市民活動の相談業務や講演活動などを行っています。NPOという言葉を知らない人・聞いたことがないという人はほとんどいないと思います。ボランティアという言葉も同様です。日本では阪神・淡路大震災を契機に市民活動が認知されました。東北の大震災でのボランティア活動は記憶に

新しいところでしょう。NPO法人は「夢創造機構」と言われるように、自分が「こうなったらいいな」「こんな世の中にしたい」という思いを実現させる市民による公益活動ですが、さまざまな分野で全国で50,000法人、宮崎県下で425法人(平成27年11月現在)が活動しています。

私はJAZZなど音楽が大好きで、市民によるコンサートを長年仲間と開催していましたが、その活動の延長で現在NPO法人で県立西都原考古博物館の運営の一部を受託する法人を運営し、同時に他法人で県内NPO法人の運営支援などを行っています。



押川 貴秀
(47回卒)

プロフィール

株式会社「岡崎組」勤務

宮崎日大高校での生活を振り返って今思う事

宮崎日大高校というマンモス高校に入学し、初めの頃はその人数の多さに驚きを感じながら、高校生活をスタートさせました。せっかくの高校生活を何もせずに送るのはもったいないと一念発起して「野球部」に入りました。

入部してみると想像以上に日々の練習が厳しく、練習についていくのが精一杯でした。何度かやめようと思いましたが、ここでやめたらすべてが無駄になるし、自分に負けたくないという気持ちが強く必死に食い下がってやり抜きました。今、改めて振り返ってみると、あのころがあったから今の自分があるように思います。社会人になり嫌なこと、しんどい事、時には投げ出したくなるような事も多々ありましたが、そのたびにあの頃の練習のことを思い出して、あの頃の練習に比べればこのくらい何てことはないと思いきりかえていました。学生生活は勉強ももちろん大切なことですが、私にとっては、野球部を辞めずに3年間やり通したことが今の自分の原点ではないかと思えます。これからの人生も多分まだ続くと思えますが、宮崎日大高校の卒業生としての誇りを持ち家族、(特に嫁には毎日ありがとうと心では手を合わせております)、そして周りの皆さんに感謝の気持ちをもちながら自分の信じた道を仲間と一緒に歩いていきたいと思えます。ちなみに今は野球ではなく縁あって「空手道」の道を邁進しております。



空手道を通じて、日々鍛錬している